

小坂屋台の歴史

1代目

明治二十六年八月

敬社員の懇望に因り屋台購入の件を決議し下記世話掛の熱心なる尽力に依り本村出身阪神地方在住者に寄附金の懇請し全年九月二十三日飾磨郡宇佐崎村に於て下記の価格にて屋台を買い求めた。

屋台価格 金 壹百参拾貳圓也

諸経費 金 参拾九圓也

惣代 吉田市助

世話掛 吉田治三郎 浅田捨松 三木仁兵衛

山田清右工門 吉田市三郎 三木儀三郎

明治二十六年十月

村社境内西南隅に在りし絵馬堂を取り払い其の材料にて屋台蔵を建築。

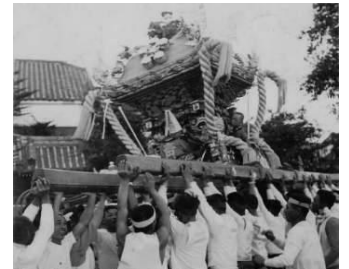


昭和40年代

屋台蔵と子供屋台

2代目

昭和八年四月（一九三三）小坂大屋台新調 廣村 金井大工



3代目

昭和五十六年 小坂自治会子供屋台大を新調。 制作 川村治郎

昭和30年代子供屋台と大人屋台

当時、太鼓打ちは中学生

三木、太田、田浦兄弟



子供屋台大と小



新調時屋台大

改修後の屋台大



完成予想図

平成二十年六月（二〇〇八）

自治会倉庫、屋台蔵の新築と
子供屋台大の担棒、泥台を大人用に新調。
制作 毛利工務店

4代目

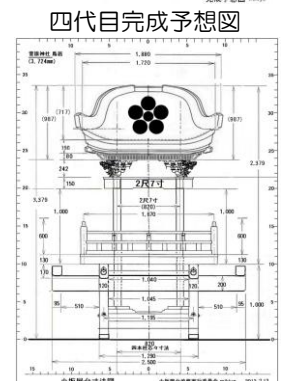
平成二十四年八月（二〇一二）

菅原神社修繕記念行事として
屋台屋根を大屋台に改修決定。

小坂屋台改修実行委員会を発足。

平成二十五年五月

小坂屋台改修実行委員会実務委員の検討結果資料にて
毛利工務店と契約。平成26年9月完成予定。



< 4代目屋台の運行について >

- ① 2代目屋台以来約80年ぶりの大屋台（大人屋台）復活となります。取り扱いが今までの屋台大とは大きさ重さ共に大きく異なります。危険度が大きくなります。
- ② 2代目当時と同じく大人屋台は自治会（含む賛助会）と青年会の太鼓打ち（乗り子）で運行する。（青年男子 石原、池田、桂、三木、都田、山口、竹内、7名任命済み）
- ③ 子供屋台と壇尻は、乗り子ともに子ども会の運行する。
- ④ 入魂式は菅原神社遷座式の翌日に執り行い、秋期例大祭は「菅原神社修繕奉祝秋祭り」とする。
- ⑤ 現在の屋台大は4代目屋台に再使用するもの以外は毛利工務店に買い取ってもらい、屋台以外の備品購入資金とする。